

「第10回非静力学モデルに関するワークショップ」2008.11.27-28プログラム(確定版08.11.07)

日	時	セッション	氏名	共著者	所属	題目	予稿	
27日(木)	13:00-13:15	開会挨拶	坪木和久				予稿	
	13:15-15:30 座長 中村晃三	I. 雲物理	中村晃三	藤吉康志、坪木和久、久芳奈遠美	海洋研究開発機構地球環境フロンティア研究センター	ピン法雲微物理モデルを使った暖かい雨のバルク法モデルの改良	予稿	
			成田正巳	長澤亮二	気象庁数値予報課	気象庁メソ数値予報モデルにおける雲氷の数濃度の予報変数化	予稿	
			三井達也		気候システム研究センター 中島研究室 博士過程三年	2Moment Bulk法雲微物理モデルの開発と、エアロゾル除去過程の感度実験	予稿	
			井口享道		東京大学気候システム研究センター	ミリ波雲レーダーデータを利用した気象庁非静力学モデル雲微物理過程の検証	予稿	
			大西 領	高橋桂子((独)海洋研究開発機構 地球シミュレータセンター)、小森 悟(京大大学院工学研究科)、	(独)海洋研究開発機構 地球シミュレータセンター	MSSGピン法を用いたメソスケール対流雲のシミュレーション	予稿	
			氏家将志	橋本明弘(気象研究所)	気象庁数値予報課	4-ice雲物理過程を用いた理想実験	予稿	
			橋本明弘	氏家将志(気象庁予報部数値予報課)、林修吾(気象研究所)、加藤輝之(気象研究所)	気象研究所	雲解像モデルによる夏季固体降水の表現	予稿	
			II. 突風・強風	竹見哲也		京都大学 防災研究所	メソ降水系内部の渦構造の形成過程と地上付近の強風について	予稿
	伊藤純至	新野宏(東大・海洋研)、中西幹郎(防衛大学校)		東大・海洋研	高解像度LESによるDust Devilの再現	予稿		
	15:30-15:45	休憩						
	15:45-18:00 座長 坪木和久	II. 突風・強風	下瀬 健一	川野哲也(九大院・理)	九州大学大学院理学府	MM5を用いた竜巻発生の数値シミュレーション	予稿	
			小山健宏		東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻	非静力学モデルを用いた南極カタバ風の力学的研究	予稿	
		III. 降水システム I・対流システム	中島健介	小高正嗣・杉山耕一朗・山下達也・石渡正樹(北大・宇宙理学)・高橋芳幸・林祥介(神戸大・惑星科学セ)	九大・理・地球惑星	惑星大気における非静力学数値モデリング	予稿	
中井専人			岩本勉之・本吉弘岐・山口悟・石坂雅昭・佐藤篤司	防災科学技術研究所 雪氷防災研究センター	長岡周辺の降雪予測実験と観測による検証: 2008年2月の事例	予稿		
里村雄彦				京都大学大学院理学研究科	ベンガル湾を移動する降水システム(1)	予稿		
金田幸恵				地球科学技術総合推進機構(AESTO)/気象研	温暖化実験時の極端豪雨事例の結果にみられたNHMの水平解像度依存性	予稿		
IV. 台風 I		斉藤和雄	黒田徹・國井勝・高野洋雄	気象研究所、気象庁海洋情報室	ミャンマーサイクロンNargisのアンサンブル予報実験と高潮シミュレーション	予稿		
		伊藤耕介	石川洋一、淡路敏之	京都大学理学研究科 海洋物理学研究室	強風状況下の海面フラックスについて ~台風の強度に対する感度実験及びアジョイント法による推定手法~	予稿		
		坪木和久	榊原篤志(中電シー・ティー・アイ)、渡部雅浩(東大CCSR)、篠田太郎(名大HyARC)、吉岡真由美(名大HyARC)	名古屋大学地球水循環研究センター	タイリング領域法を用いた雲解像モデルの計算	予稿		
18:30-		懇親会						
28日(金)	9:00-10:30 座長 柳瀬亘	V. 台風 II	沢田雅洋		東北大学理学研究科	蒸発冷却が台風及ぼす影響	予稿	
			柳瀬亘	佐藤正樹(発表者)	東京大学気候システム研究センター(CCSR)	全球非静力学モデルNICAMを利用した台風発生の再現シミュレーション	予稿	
			荒金匠	佐藤正樹、柳瀬亘	東京大学気候システム研究センター	領域版NICAMを用いた台風0616に生じた爆発的対流に関する数値的実験	予稿	
	VI. 局地風	Weiming Sha(余偉明)		Geophysical Institute, Graduate School of Science, Tohoku University	A high-resolution numerical investigation on three-dimensional fine structures (i.e., HCRs and lobe/cleft) of the sea breeze	予稿		

			石睿(Shi Rui)		愛媛大学院理工研究科	Numerical simulation of Sea/Land breeze in western Seto Inland Sea	予稿	
			沢田雅洋		東北大学理学研究科	蔵王おろしの数値実験-2008年2月14日の事例-	予稿	
	10:30-10:45	休憩						
日	時	セッション	氏名	共著者	所属	題目		
28日(金)	10:45-12:00 座長 篠田太郎	VI. 局地風	池上茉莉花		東北大学理学研究科	SAR観測データとNHMを用いた北海道南西部における地峡風の研究	予稿	
		VII. 降水システムⅡ	瀬古弘	林修吾・國井勝・斉藤和雄	気象研究所	非静力学モデルで再現したムンバイ豪雨	予稿	
			瀬古弘	林修吾・國井勝・斉藤和雄・三好建正(数値予報課)・足立 誠(松江地方気象台)・金森恒雄(神戸海洋気象台)	気象研究所	LETKFを用いた日本域の豪雨再現実験	予稿	
			篠田太郎	野村光春・加藤雅也(名大HyARC)・渡部雅浩(東大CCSR)・坪木和久(名大HyARC)	名古屋大学地球水循環研究センター	降水システムの盛衰に対応した雲物理量の確率密度分布の変化～雲解像モデルの結果を用いた解析～	予稿	
			野村光春	篠田太郎・加藤雅也・出世ゆかり・坪木和久(名大HyARC)	名古屋大学地球水循環研究センター	雲解像モデルCReSSを用いた東海地方における平成20年8月末豪雨の数値実験	予稿	
12:00-13:30	昼食							
13:30-15:30 座長 加藤輝之	VIII. モデル開発	青柳暁典	清野直子		気象研究所	NHM用単層都市キャンピースキームへのビル面潜熱輸送過程の導入	予稿	
		成田正巳			気象庁数値予報課	気象庁メソ数値予報モデルにおける Kain-Fritsch 対流パラメタリゼーションの改良	予稿	
		富田浩文			海洋研究開発機構・地球環境フロンティア研究センター	大気-陸面インターフェースでのエネルギー収支方程式の解法について	予稿	
		加藤輝之			気象研究所	暖候期の九州・四国地方における5km-NHMと1km-CRMとの非断熱加熱鉛直分布の比較	予稿	
		石田純一			気象庁数値予報課	JMANHMのHI-VI法の再実装について	予稿	
		荒波恒平			気象庁数値予報課	高分解能局地モデルの開発(第2報)	予稿	
		荒波恒平			気象庁数値予報課	DVD-NHMの開発	予稿	
		山崎弘恵			京都大学大学院理学研究科	次世代超高解像度メソ気象モデルの開発	予稿	
15:30-15:45	休憩							
15:45-17:45 座長 川畑拓矢	VIII. モデル開発	中村誠臣	加藤輝之、林修吾		気象研究所	GCSS-ARMによるNHMの物理過程パラメタリゼーションの特性評価	予稿	
		林修吾	荒波恒平、斉藤和雄		気象研究所予報研究部	熱帯域と日本域における20km解像度NHMとWRF-ARWの統計的精度検証	予稿	
	IX. アンサンブル予報・データ同化	藤田 匡	津口裕茂(数値予報課)・三好建正(数値予報課)・瀬古弘(気象研究所)・斉藤和雄(気象研究所)		気象庁予報部数値予報課	気象庁におけるメソアンサンブル同化システムの開発	予稿	
		川畑拓矢	三上彩・古本淳一(京都大学)		気象研究所	RASSIによる仮温度データ同化のインパクト	予稿	
		小野耕介	本田有機(気象庁数値予報課)・原昌弘・國井勝(気象研究所)		気象庁数値予報課	特異ベクトル法によるメソアンサンブルの開発	予稿	
		斉藤和雄	瀬古弘・國井勝・原昌弘		気象研究所	NHMIによるBGM法の開発とNHM-LETKFへの境界値摂動の影響	予稿	
		国井勝	本田有機・斉藤和雄・小野耕介(気象庁数値予報課)		気象研究所	メソ特異ベクトル法を用いた日本域アンサンブル予報実験	予稿	
		津口裕茂			気象庁予報部数値予報課	MSM-LAFによる降水予想について	予稿	